

全国大学書写書道教育学会 第29回(埼玉)大会 シンポジウム

「筆記具(硬筆・毛筆など)の特性を生かした学習の工夫」

日時 平成26年10月12日(日) 13:30~16:30

会場 埼玉大学教育学部

(〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255 ☎048-858-3184

埼玉大学教育学部書道研究室)

【シンポジウムは入場無料・事前申込不要】

一昨年の京都大会では「これからの書写書道教育をめざすために」をテーマとしラウンドテーブルを開催、その結果を受けて昨年の群馬大会シンポジウムでは、書写書道教育の在り方や今後についていろいろな角度から熱く語っていただきました。これらの成果をもとに、本年度より、課題研究部門を復活させるとともに、喫緊の課題については学会内にプロジェクトチームを発足させ、プロジェクト研究として推進することとなりました。今回は、「筆記具(硬筆・毛筆など)の特性を生かした学習の工夫」を中心としたこれまでの研究成果及び、新しい知見をそれぞれのプロジェクトリーダーから発表していただく予定です。現在、いろいろな筆記具が存在しますが、どの年齢からどの筆記具を用いるのが効果的なのか、その特性を生かした学習とはどのようなものかなど、これからの書写書道の学習に適した新しい筆記具の開発やその学習方法などについての課題が山積みです。新しい試みや研究がどこまで進んでいるのか今後どのように発展させるのか期待されます。第2部では、参加いただいた会員の皆さんとともに意見交換をして、これからの研究の方向性や在り方を考え、模索していけたらと考えております。

全国大学書写書道教育学会・企画広報局

第1部 プロジェクトの研究成果発表

- (1) a 筆記具の効果的使用をテーマとする書写教育研究の史的考察—課題と展望—
広島大学 松本仁志
- b 学校で使用される筆記具の教育史—国語科書写における筆記具の学習の見地から—
新潟大学 清水文博
- (2) 毛筆把持による硬筆の「持ち方」改善メカニズムの解明
静岡大学 杉崎哲子
- (3) 小学校低学年期における毛筆経験の硬筆書字への影響
横浜国立大学 青山浩之
- (4) 毛筆の機能とマグネットボードを用いた書字学習用具の開発
上越教育大学 押木秀樹

第2部 シンポジウム

パネラー 横浜国立大学 青山浩之 上越教育大学 押木秀樹
静岡大学 杉崎哲子 広島大学 松本仁志

コーディネーター 武蔵野大学 廣瀬裕之

主催:全国大学書写書道教育学会 後援:埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会